

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0067号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成22年2月11日

護國青年會議議長 日刊ひぐらし主幹

山本修三逝く

【虎の眼と私】
辛い報せが届いたのは、昨年
12月27日、慌ただしく時が流
れる年の瀬の夕闇迫る頃でした。
同志からの一報は、私の脳髓に稲
妻を走らせ、辺りを闇に覆うほど
強い衝撃を与えました。わが耳を
疑い、間違いであつてくれと願う
気持は儘く散り、人の世の無常を
知らされることとなりました。



私が初めて山本議長とお会いし
たのは、日野市にある中華料理屋
でした。当時、民族派団体の創設
に東奔西走していた我々に手を差
し伸べ、指針を与えて下さったの
が山本議長と白皇社本部長の任に
あつた井之上浄誓現会長でした。
威風堂々としたオーラを発する
お二人の姿は、他を圧するものが
ありました。前を歩く山本議長の
眼光は鋭く、その輝きは『獲物を

狙う虎の眼』そのものでした。
闇夜に船を出すような状態にあ
つた我々に対して、時には笑える
ようなエピソードを交えながら懇
切丁寧に民族派としての心構えを
教えて下さったことが、つい昨日
の出来事のように蘇ります。以来、
私は議長の『押し掛け弟子』とな
り、様々な薫陶を受け、今日に至
っております。

4年前、私が所属していた民族
派団体で路線面での対立があり、
会の中で浮いた存在となつた私は、
退会を余儀なくされ、身の振り方
を議長に相談したことがあります。
「退会だろが除名だろが構わ
ない。そうなつたら加藤と二人で
ひぐらしをやればいい」と有り難
い言葉を掛けて下さいました。
私には力ネも財産もなく、遣せ
るものは、人間として男としての
生き様だけでした。この道に心血
を注ごうと意を決し、民族派団体
の立ち上げに関わりましたが、前
述したような中途半端な状態とな
つてしまいました。議長呼び掛け
は、私にとつて『天の声』でし
た。議長の『天の声』がなければ、
生き様を遣すどころか、生き恥を
晒すだけとなつたことでしょう。
昨年10月18日、入院先の国
立国際医療センターに議長を訪ね、
言葉を交わしたのが最後となつて
しまつとは…。帰り際、退院した
ら事務所に来い」と言つて、私の
手を握り締めましたが、その力は
弱々しいものでした。しかし、虎
の眼は輝きを失つておらず、その

眼は、まるで日本国の行く末を
案じるかのように遙か雲の彼方
を見ているようでした。
幕末の偉人、吉田松陰は『身
はたとひ 武蔵の野辺に朽ちぬ
とも 留め置かまし 大和魂』
と辞世を遺しています。松陰の
遣した大和魂は、久坂玄瑞、高
杉晋作、山縣有朋、伊藤博文ら
に受け継がれ、日本の近代化に
多大な貢献をしたことは万人の
認めるところです。

松陰の死から150年の歳月
が流れた皇紀2669年12月
27日午前6時、護國青年會議
議長、日刊ひぐらし主幹・山本
修三が幽明境を異にしました。
国の内外に難問が山積する現
状を鑑みる時、議長の逝去は護
國青年會議のみならず、斯界の
各団体に与える影響は計り知れ
ないものがあります。しかし、
山本議長の遣した『山本魂』は
井之上会長を始めとする護國青
年會議全員の心底に生き続け、
必ずや日本を正しい方向へ導い
てくれることでしょう。
議長、寒くないですか？
議長、腹が減っていませんか？
議長、一服しませんか？
議長、一杯やりませんか？
議長、議長、語り掛ければ言葉
は尽きません。議長と共有でき
た歳月は私の一生の誇りです。
さようなら議長、長い間御苦労
様でした。今はただ御冥福を祈
るだけです。
ひぐらし編集部長・戸出蒼流
合掌

故山本修三追悼集



つき人を
ついの別れと
吊へど
心は消えず
在りし面影

蒼流

山本修三の教えを受け、民族派としての行動を目の当りにしてきた我々にとつて、その死は、まさに『巨星墜つ』の一言に尽きます。このたび、2月13日に満中陰を迎える山本修三を偲ぶ声が多くの関係者より寄せられてきました。此処にその一部を掲載して、故人の人となりやを偲ぶとともに、感謝と哀悼の意を新たにしたいと思えます。

編集人

【父・山本修三】
信じられないでしょうが、記憶の無い幼い頃を除けば、私が父と過ごした期間は15歳から18歳までの3年間だけです。



えない絆で繋がっているという感覚を持つていたのかも知れません。ですが、私も年齢を重ねる事で少しずつ観点も変わり、言わなくても解る事、など世の中には、そうそう無いと考えるようになりました。例えどんなに気心が知れている相手でも『言葉』で伝えなくては、根本を理解して貰うには苦勞するのではないかと思えます。

父は43歳の時、人間にとつて非常に重要な『言葉』を司る言語野を患ってしまいました。笑ったり、怒ったり、人が生活するにあたって無意識に発するである『言葉』を父は失っていきます。

偉大なる父は言葉を失い、勇壮なる理想を持った父の前に病氣という厚い壁が立ちました。

歩く事さえ困難になった晩年の父は、何を思っていたのだろうか。世界平和を願い、常に前向きに生きてきた父、どんな人にも強く毅然と対峙してきた父、その父が骨となり、この国の未来がどうなるのか、無責任な長男には知る由もありません。今は、父が亡くなったという事実

を潔く受け止め、混乱する頭の中を整理することに精一杯の日々を送っています。

長い間、父を支え、励まし、お付き合いくださいました皆様に対し、父に代わりまして心からお礼申し上げます。

修三長男・山本慎太郎
.....

【山本議長を偲んで】

光陰矢のごとし...私が初めて議長にお会いしてから6年の歳月が経ちました。王者のような威厳と風格があり、近寄り難い雰囲気をお持ちでしたが、実際に話をさせて戴くとそうではなく、私のようなものにも気さくに接して戴き、若いころのエピソードをユーモアまじりに語り、臣民としての誇りや民族派団体の一員としての気構えを解り易く論じてくれるなど、厳しさの中に優しさを兼ね備えた議長の



一面を見ることができました。



4年程前に議長と昭和天皇記念館を拝観したことがありました。

昭和天皇がご幼少の時にご愛用されていた自転車を谷田部浩士赤心塾塾頭が所蔵されていて、その自転車が展示されていることから急遽拝観することとなりました。展示品を一つ一つゆっくりと見て回っていた議長が、自転車の前によつて来ると、しばらくの間、歩を止めて感慨深げにご覧になられていたお姿が鮮明に蘇ります。

大した活動もできない私に対して、個人的な悩みまで聞いてくださり、的確なアドバイスを戴いたこともありました。紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

今まで本当にありがとうございました。永い間御苦勞様でした。ごゆっくりお休みください。ひぐらし取材部・小杉雄一

【感謝の言葉】

私が『真珠湾』というハンドルネームで初めて掲示板に書き込みをした時、快く迎えてくださったのが山本議長でした。投稿者が私だということはご存じなく、どこかの馬の骨かも分からない者の書き込みにも暖かいお言葉を掛けてくださったことを今でも鮮明に覚えています。



間もなく『真珠湾』が私だということ、私がある団体の末端に身を寄せていたことが判明しましたが、その後も変わらず接して戴いたことには感謝の気持ちがあえまぬ。

掌を合わせてお見送り致しておりましたが、思いは届きましたでしょうか。結局きちんとお礼申し上げる機会を失ってしまつた事が心残りではありません。この場をお借りしてお礼の言葉を申し上げ、感謝と哀悼の念を表したいと思えます。



と、議長が座つてパソコンを操作している姿が目に見え込んで作りました。私はクジラの看板と議長長のギャップに驚いたことを忘れることができません。一杯飲みながらその話をすると、議長はいつも「ブフオツ！」と吹き出していましたね。あの時、クジラの扉を開けなかつたら私は未だにパソコンを使えなかつたかも知れません。

初台のリハビリセンターでもよくお茶しましたね。思うように成果が出ない悔しさと怒り等々、二人で目を潤ましたこともありましたが、議長長の心中を察すると、話を聞いた時、冗談を言つて笑つて貰うことくらいしかできない自分の無力さを痛感致しておりました。

これからは好きなだけ飲み、煙草も好きなだけ吸い、好きなだけ甘い物を食べて下さい。告別式で謝辞を述べる慎ちゃん、しっかりと書いておきましたね。私には『山本家』の血を受け継いだ格好良い男に映りました。そして、血は繋つていなくても議長長には『山本塾』で育つた生徒達が勢います。安心してお休みになつて下さい。もつともつと山程話したい事がありますが、疲れちゃうのでしょうから終りにします。さよなら オヤジ